



からしだねの由来 マタイ 13章 31節、マルコ 4章 30節、ルカ 13章 18節

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第444号

皆さん、はじめまして

私は、ロザイロ・ブラッドリー神父です。1964年10月30日スリランカの北東部にあるトリンコマリというところで生まれました。高校を卒業してからフランスで生まれたオブレート会（カトリック聖母献身宣教会）に入学し、1992年8月22日司祭に叙階されました。

叙階式が終わって後、スリランカのコロomboで二年間病院のチャプレン（病院に勤務の司祭）の経験をしました。その後、オブレート会の総長神父に選ばれて1994年に日本に来ました。そして、すぐ翌月から名古屋YWCAで2年日本語を勉強しました。そのうえ名古屋南山大学で日本の歴史と社会について少し勉強もあったので大変忙しかったのですが、これも大変興味のあることでした。

日本語の勉強を終えてから福岡教区、大阪教区、高松教区という順で教会を中心に宣教活動をしました。幼稚園やボランティア活動に関わったこともありまし

た。また、6年間オブレート会日本・韓国地区の地区長をしてから昨年サバティカルで海外に行って来ました。現在、古賀修道院の院長を務めながら、今年の春からカトリック水巻教会を担当しています。どうぞよろしくお願いいたします。



ミャンマーの話	2面
幼稚園から	3面
新教皇レオ14世の最初の祝福	4・5面
教皇レオ14世の誕生にあたって	5・6面
小教区委員会報告	7・8面
お知らせ	8面

ミャンマーの話

岩本光弘

今年の4月上旬にミャンマーで大地震がありました。3000人以上の人が亡くなったという報道があります。水巻教会でも支援のカンパが始まりましたので、ミャンマーに行ったことがありますので、現地のことを書いてみます。

2011年1月に古賀教会のジウド神父とスリランカに行った後、福岡の「世界の山と秘境」専門の旅行社から電話がありました。そのころミャンマーもスリランカと同じように各地でゲリラ戦があっていて、ミャンマー中部の大都市は入国できるけれど、地方の山岳地帯は少数民族と政府軍が戦っているので入域できませんでした。

話によると「地方のゲリラの許可が下りたので、ミャンマー北部の山岳地帯に少し入ります。一緒に行きましょう」と言うことでした。私はこういう旅は大好きなので早速行くことにしました。日程は2011年4月上旬でした。私たちは入国許可と北部の地域への入域許可証を手に入れましたが、現地まで行って突然ダメと言われる可能性があるのもう1通の申請書を用意していきました。山の話は面白かったのですが別の機会にします。

下山後、時間をかけて各地を巡ることになり、奥地から最初に飛行機で着いたのがマンダレーでした。マンダレーと南にあるバゴンには5日滞在して各地を見て巡りました。

ミャンマーでは4月は1年で一番暑い時期で、朝から30℃でした。学校も4月は夏休みです。山の方の集落では私たちが行くと子どもたちが沢山出てきたので、この子たちは学校に行っていないのかと思いましたがガイドから夏休みと聞かされて納得しました。

マンダレーはミャンマーの京都のような町です。王朝時代の宮殿の後も残っていますし、たくさんの有名な仏教寺院があり、子どもが夏休みなので全国からたくさんの人たちがお参りに来ていました。その上、お釈迦様の誕生日に合わせて有名な水かけ祭りが行われます。

マンダレーはミャンマー第二の都市ですから近代的な建物も多く今回の地震ではたくさん崩壊したようです。心配なのは都市から離れた町です。北部カチン族の地域では町から少し離れるとほとんどの家が高床式になっていました。雨季の洪水のためでしょう。

マンダレーの郊外の家もほとんどが簡単な作りの家でした。今回の地震では都市部の近代的な建物よりたくさん家が壊れたと思います。ミャンマー国内の道路は私たちの想像以上に悪く、地図上で遠賀～久留米くらいの距離でも車で8時間かかるそうです。国の中心部から外れた地域にはたくさんのキリスト教徒が住んでいます。最北部は全部キリスト教徒でした。この人たちへの支援の手が届いていないのではないかと心配しています。

今度の国内戦ではキリスト教の教会が爆撃されたという報道も見えています。貧しい人も沢山住んでいますが、私が接したミャンマーの人は本当に穏やかな人ばかりでした。

その人たちが軍事政権に対して戦いをするということは余程のことだろうと思います。困っている人たちへ支援の手が届くように願わざるを得ません。



水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 6月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

〈水巻聖母幼稚園〉



5月8日は春の遠足で到津の森公園に行きました。例年とは違った場所に行くことができ、保護者の方も子どもたちもとても嬉しそうでした。体操では保護者の方も一緒になって行い、全体で楽しむことが出来ました。体操の後は、クラスごとに動物を見て回りました。たくさんの動物たちを間近で見ることができ、一

日大興奮の子どもたちでした。

園庭のプランターに各クラスで夏野菜を植えました。毎日水をあげて夏野菜の成長を楽しみにしている子どもたちです。夏野菜も子どもたちのように大きく育ちますようにお祈りしたいと思います。



TEL : 093 201 9559

e-mail : coutactus@mizumakiseibo.ed.jp

〈マリア子どもの家〉



5月8日(木)水巻聖母幼稚園と一緒に、春の遠足で到津の森公園に行きました。快晴でやや暑い日差しでしたが、涼しい風があり絶好の遠足日和でした。集合した後、お祈り・体操をして、写真撮影の後みんなで動物を見に行きました。丁度、ライオンが近くにいて、間近で見る事が出来ました。

子ども達が近寄ると、ライオンも立ち上がりガラスをガジガジして歓迎してくれているようでした。「わぁ！大きいね」と子ども達はライオンの迫力に驚きながらも興味津々で近寄って行っていました。キリン、サル、ゾウ、アライグマ、シマウマ、ヤギなどたくさんの動物を見て、その後、みんなでお弁当を食べました。たくさん遊ぶことが出来て、楽しい遠足でした。



TEL : 050 5212 7759

[https : www.mariahouseofchildren.jp](https://www.mariahouseofchildren.jp)

水巻聖母幼稚園・マリア子どもの家

園長 水口 由美

教職員 一同



新教皇レオ十四世の最初の祝福



あなたがたに平和があるように。

愛する兄弟姉妹の皆さん。これが、神の民のためにいのちを与えた、よき牧者である、復活したキリストの最初の挨拶です。わたしもこう望みます。この平和の挨拶が皆さんの心に入りますように。皆さんの家庭に、どこにいたとしてもすべての人に、すべての民族に、すべての地に届きますように。あなたがたに平和があるように。

これが復活したキリストの平和です。謙遜で、忍耐強い、武器のない平和、武器を取り除く平和です。この平和は神から来るものです。神はわたしたち皆を無条件で愛してください。教皇フランシスコがローマを祝福された、弱々しいけれども常に勇気に満ちた声が、今もわたしたちの耳に残っています。

ローマを祝福された教皇は、復活祭の朝、世界に、全世界に祝福を与えました。同じ祝福を繰り返すことをわたしに許してください。神はわたしたちを愛してください。神はわたしたち皆を愛してください。悪が打ち勝つことはもはやありません。わたしたちは皆、神のみ手のうちにあります。それゆえ、恐れることなく、神と、また互いに手と手をつないで、前に進んでいきましょう。わたしたちはキリストの弟子です。キリストはわたしたちに先立って歩んでくださいます。世界はこの方の光を必要としています。人類は、神とその愛に達するための橋として、この方を必要としています。皆さんもわたしたちを助けてください。対話と出会いによって互いに橋をかけるために。わたしたちが皆、一つに結ばれて、常に平和のうちにある唯一の民となることができるために。教皇フランシスコよ、ありがとうございます。

兄弟である枢機卿の皆様にも感謝申し上げたいと思います。皆様がわたしをペトロの後継者に選んでくださったのは、わたしが皆様とともに歩むためです。一致した教会として、常に平和と正義を求め、イエス・キリストに忠実に従う者として、恐れることなく、福音を告げ知らせ、宣教者となろうと労苦するためです。

わたしは聖アウグスティヌスの子です。アウグスチノ修道会士です。アウグスティヌスはこういいました。「わたしはあなたがたともにキリスト者であり、あなたがたのために司教です」(アウグスティヌス『説教』[Augustinus, *Sermo* 340, 1: PL 38, 1483] 参照)。この意味で、わたしたちは皆、神がわたしたちに用意してくださった祖国に向けてともに歩むことができます。

ローマ教会に特別にご挨拶申し上げます。わたしたちは、どうすれば宣教的な教会になることができるかを探求しなければなりません。教会は、橋をかけ、対話しなければなりません。

ん。腕を広げたこの広場のように、人々を受け入れるために常に開かれていなければなりません。（以上、イタリア語。以下、スペイン語）

すべての皆様、とくに愛するペルーのチクラヨ教区の皆様に一言、ご挨拶させていただきます。そこでは忠実な民が司教に同伴し、信仰を分かち合い、イエス・キリストに忠実な教会であり続けるために、本当に多くのものをささげました。（以下、再びイタリア語）

ローマ、イタリア、全世界の兄弟姉妹の皆さん。わたしたちはシノドス的な教会になることを望みます。それは、道を歩む教会、常に平和を求め、常に愛の業を求め、とくに苦しむ人に常に寄り添うことを求める教会です。

今日はポンペイの聖母への祈願日です。聖母マリアは常にわたしたちとともに歩み、わたしたちに寄り添い、その執り成しと愛をもってわたしたちを助けようと望まれます。

それでは、皆さんとともに祈りたいと思います。この新しい使命のため、全教会のため、世界の平和のために祈りましょう。そして、特別な恵みを聖母マリアに願い求めましょう。

アヴェ・マリア……

教皇レオ14世の誕生にあたって

日本カトリック司教協議会会長 カトリック東京大司教区 大司教 枢機卿 菊地功

5月8日夕刻、バチカンのシスティーナ聖堂に集まったわたしたち133名の枢機卿団は、前日7日の夕刻に始まった教皇選挙における第4回目の投票で、兄弟であるロバート・フランシス・ブレヴォスト枢機卿を、第267代目の教皇に選出しました。

同枢機卿は枢機卿団の前で、首席枢機卿代理のピエトロ・パロリン枢機卿からの問いかけに答えて選挙の結果を受諾し、「レオ」と名乗ることを宣言されました。教皇レオ14世の誕生です。

レオ14世は、聖アウグスチノ修道会に属する修道者であり、また米国出身者として初めての教皇となりましたが、聖アウグスチノ修道会の総長を務めた経験や、ペルーにおける豊富な宣教師としての体験、さらにはペルーで教区司教として務めておられたこともあり、福音宣教の現場に精通しておられる教皇様です。また直近ではバチカンの司教省長官を務められ、司教の役割についても精通しておられます。その意味で、教会の司牧の現場と行政の現場の両方に深い知識と経験を持つ、力強い牧者の誕生であります。

教皇選挙の直前、フランシスコ教皇が帰天された翌日から教皇選挙の前日まで、日曜と5月1日を除いて毎日開催された枢機卿団の総会には、毎回、180名近い枢機卿が参加し、日本から参加したわたしや前田枢機卿様を含め、ほぼ全員が発言する機会を与えられまし

た。その中で繰り返し強調されたのは、教皇フランシスコの類い希な深い霊性に基づく決断力と行動力への感謝の言葉であり、同時に教皇フランシスコが残された道を継続して歩み続けることの必要性でありました。しかしながら枢機卿団は、教皇フランシスコの後継者を探しているのではなくて、使徒ペトロの後継者を捜し求めているのだということを、皆が心に深く留めていました。枢機卿団が祈りのうちに求めたのは第二の教皇フランシスコの誕生ではなく、主ご自身から牧者となるように委ねられた教会を忠実に導く使徒ペトロの後継者でありました。多くの枢機卿が、多様性を尊重しつつも、信仰における明白性を持って、教会が一致することの重要性を強調されました。

これから教皇レオ14世がどのような司牧の道を進まれるのかは未知数です。教皇フランシスコとは異なる道を歩まれるかもしれません。引き継がれることも多くあるでしょう。そういった教会の現実の中で、ペトロの後継者に聖霊の豊かな祝福と、護りと、導きがあるように、教皇様のために日々お祈りいたしましょう。

サンピエトロ広場での第一声で、教皇レオ14世は、キリストの平和を確立することの重要性を説かれました。また対話と出会いの重要性を説かれました。共に道を歩むことの大切さも強調されました。現代の教会における社会教説の基礎となった回勅「レールム・ノヴァールム」を1891年に発表されたのは、レオ13世でした。レオの名前を継がれた教皇様には、社会に対する教会の働きかけについての強い思いがあるものと思います。

教皇様の声に耳を傾けながら、これからともに歩んで参りましょう。

また教皇を支え、歩みを共にする枢機卿団のためにもどうかお祈りくださいますようお願いいたします。

2025年5月9日



今月の聖人

3日 聖クロティルジス皇后 450年ごろ-545年

クロティルジスは5世紀の中ころ、ゲルマン民族の大移動の波で、バルト海沿岸から今のフランス東南部に移住したブルグンド族の王家に生まれました。彼女の母は熱心なカトリック信者で、クロティルジスの信仰教育をよく行いました。クロティルジスは、フランク族の王クロヴィスと結婚。信仰深い彼女の影響によって、王はランスの司教聖レミギウスの指導のもと、496年のクリスマスに洗礼を受け、改宗しました。そして王は、小国を統一してメロヴィング朝を建て、教会の忠実な保護者となりました。この王の名声のか傍らで、彼女は王子たちを教育し、貧しい人びとを助け、王に聖堂の建築を勧めるなど、力を尽くしました。

委員会等報告

2025年5月分

5月度小教区委員会 5月11日

1. 行事予定

- ・6月 1日(日) 9時半～ミサ
ミサ後、役員会
- ・6月 8日(日) 9時半～ミサ
ミサ後～小教区委員会
教会学校
- ・6月15日(日) 9時半～ミサ
ブラットリー神父様歓迎会
ベトナム語ミサ 18時～
- ・6月22日(日) 9時半～ミサ
ミサ後こころの会・教会学校
- ・6月27日(金) 絶えざる御助けの聖母
- ・7月20日(日) 9時半～ミサ
※アベイヤ司教様、公式訪問日。
- ・平日のミサ 木曜日 10時～ 週1回

2. 議題

(1)各専門委員会および代表委員(営繕、納骨堂、冠婚葬祭)、北九州地区宣教司牧評議委員より

①広報委員会

- ・特になし

②典礼委員会

・通夜については、信徒で行うことができるよう準備を進めていく。進め方は典礼委員会で検討していく。

③総務委員会

・梅の木・吉田・中間地区の代表委員は三原氏に交代予定。

④財務委員会

- ・信徒総会に先立ち、2024年度決算、

2025年度予算について説明がなされた。

⑤営繕の部

・パイプ椅子が3種類あるが、一番大きいものの1種類に統一する。他のものは、予備として取っておくが識別テープを貼って区分する。

・信徒会館でのリモートWEB配信は見積検討中。土足で入れるように信徒会館床材の変更も検討していく。

・スロープの水漏れ対策検討は進めるが、緊急性がなさそうなので一旦保留とする。

・祭壇埋め込みのエアコンが老朽化しており、更新を検討中。配管が聖堂内を通っており費用がかかると予想されるが、実施することとしたい。

・司祭館の2階のトイレ、浴室のタイルが損傷している。補修の要否含めて検討中。

・駐車場のラインの幅が広く駐車台数が制約されているので、引き直しを検討していきたい。

・古い傘立てや伐採した桜の枝等の廃棄をしたいが運ぶ手立てがない。軽トラをお持ちの方がいれば協力をお願いしたい。

⑥納骨堂管理の部

・6月29日に納骨堂利用者集会を開催予定。納骨堂管理委員の後任を探している。見つからない場合は地区ごとに担当を交代していくなど、管理の仕方を工夫したい。

・利用者の連絡先が不明となった場合、納骨堂委員でお骨を移動することはできず、官報

に1年間掲示するなどの手続きが求められ、管理が煩雑になる。確実に引き継いでいきたい。

⑦冠婚葬祭の部

- ・特になし

⑧北九州地区宣教司牧評議会

- ・5月25日に開催予定。

(2) その他

①訃報の際の連絡等

・訃報の際の連絡等、緊急の用件については、ブラッドリー神父様に連絡ください。連絡先は掲示板で確認ください。緊急でない用件は教会の方に連絡ください。留守録を確認次第折り返し電話致します。

②ブラッドリー神父様の歓迎会について

- ・6月15日に実施する。詳細は別途検討する。

③結婚講座

- ・信徒で対応できるようにする、あるいは、他の小教区での講座があれば紹介する方向

で検討する。

- ・水巻小教区で対応する場合は、メンバー、プログラムを検討していく必要がある。

- ・検討の進め方については役員会にて検討する。

④クリストフォールの対応

- ・病者だけでなく一人暮らしで教会に来られないといった方も対象としていく。

- ・詳細はクリストフォール代表者と打ち合わせる。

⑤巡礼旅行

- ・聖年の巡礼教会をめぐる企画を検討していく。信徒の要望もヒアリングしていきたい。

⑥水巻小教区委員会規約改定について

- ・新しく発足した北九州地区宣教司牧委員会の委員を選出しているが、現規約には規定がないので改定する必要がある。高齢化が進み、委員会活動に携われる人が減ってきている。委員会の簡素化も検討していく必要がある。規約改定の検討メンバーや進め方については上川氏に一任する。



★ブラッドリー神父様の歓迎会★

ブラッドリー神父様が水巻教会に来られて、1ヵ月ほどが過ぎました。歓迎会を行います。ブラッドリー神父様と信徒の皆さんと楽しいひと時を過ごしたいと思います。皆さんの参加をお待ちしています。

日 時：6月15日(日) ミサ後

★特別寄付★

こころの会より「南淡路の玉ねぎ」の売り上げを全額改築献金へ寄付されました。

売り上げ 13,000 円

ご協力、ありがとうございました。